

大航海時代に始まる白人帝国主義の世界制覇

世界の歴史を眺める時は、十五世紀末から始まった大航海時代から見なければなりません。コロンブスが一九二二年にアメリカに到着しました。発見ではありません。あそこにはちゃんと先住民がいて、社会が成立していたのです。バスコ・ダ・ガマがアフリカの南端を回って一四九八年インド洋に出ました。一五二二年マゼランが南米の南端を回って太平洋に出ました。こういうスペイン・ポルトガルの航海術にたけた時代を大航海時代と言います。しかし、これは美名であって、その中身は西欧白人帝国主義による世界制覇が始まった時代であります。島を見つけて自分の国旗を立てれば、その国の領土になるのです。そしてそこに住む住民は武力でこれを征伐し、奴隷にし、その国から香辛料や金銀財宝を掠奪して帰国するのです。

あの有名な歴史学者のトインビーは、『歴史の研究』の中で、こう述べています。「さながら羊の毛を刈るのごとく侵略したのだ。相手は弓とか槍しか持っていないのに、大砲や鉄砲で攻めた。白人は半神であり、土着民は歩く木か、ものを言う動物であり、人間とは見ていないのだ。だから、鉄砲で次々に殺そうと奴隷にしよう、少しも良心が咎めることはなかったのだ。」ということを書いています。

そして、スペインとポルトガルがあちこちで領土争いをするものですから、ローマ法王が条約を作りました。それは、東経四五度を境に東はスペインの管轄、西はポルトガルの管轄と決めました。つまり白人は勝手に世界を自分のものにしようとしたのです。次にはオランダが出てきます。フランスも台頭してきます。最後にイギリスが産業革命を成功させて、その力で世界を制覇していきます。こうして「七つの海に日没することのない」と言われるほどの、イギリス植民地帝国が築かれるのであります。